

まちづくり交付金 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9—有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

| | 変更 | | 変更前 | 変更後 | 変更理由 |
|---------------|----|----|------------------------------|------------------------------------|---|
| | あり | なし | | | |
| A. まちづくりの目標 | | ● | | | |
| B. 目標を定量化する指標 | ● | | — | 指標 5 : 居住者数 | 目標の一つである地域の活性化を定量化する指標として「居住者数」を追加した。 |
| C. 目標値 | ● | | 指標 4 : 交通結節機能の充実 の目標値 55m | 指標 4 : 交通結節機能の充実 の目標値 61m (+6m) | 交通結節機能をより一層充実させるため、目標値を上方修正した。 併せて関係事業の事業量を増額した。 |
| D. その他() | | ● | | | |

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

| 基幹事業 | | | | | | | | | |
|----------------|-------------|---------|------------|--------|-------------------------------|---|--|------------|-------|
| 事業 | 事業箇所名 | 当初計画 | | 最終変更計画 | | 当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む) | 都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響 | 事後評価時の完成状況 | |
| | | 事業費 | 事業内容 | 事業費 | 事業内容 | | | 完成 | 完成見込み |
| 道路 | 都市計画道路村田町線他 | 2,025 | L=880m他 | 0 | — | 村田町線、39号線、46号線を一箇所 にまとめていたが、項目を適正 化し三箇所に分割 | 目標・数値指標への影響なし。 | — | — |
| 道路 | 都市計画道路村田町線 | (1,584) | (L=880m) | 1,024 | L=880m | 村田町線他として一括計上した ものの分化及び事業費の精査 による減 | 目標・数値指標への影響なし。 | | |
| 道路 | 市道村田町19号線 | 0 | — | 16 | L=480m | H20年7月に計画変更して追加。 | 防災環境改善の指標に関係するが、消火活動困難区域の解消を 目指すという目的は同一であるため目標値は据え置く。 | | |
| 道路 | 市道村田町34号線 | 0 | — | 178 | L=350m | H20年7月に計画変更して追加。 | 防災環境改善の指標に関係するが、消火活動困難区域の解消を 目指すという目的は同一であるため目標値は据え置く。 | | |
| 道路 | 市道村田町39号線 | (143) | (L=210m) | 0 | — | 村田町線他として一括計上した ものの分化及び整備内容の見 直しによる整備の取りやめ | 防災環境改善の指標に関係するが、他の路線の整備によって消 防活動困難区域の解消を図ることから目標値は据え置く。 | — | — |
| 道路 | 市道村田町46号線 | (298) | (L=580m) | 56 | L=110m | 村田町線他として一括計上した ものの分化及び事業費の精査 による減 | 目標・数値指標への影響なし。 | | |
| 道路 | 市道村田町53号線 | 0 | — | 5 | L=190m | H20年7月に計画変更して追加。 | 防災環境改善の指標に関係するが、消火活動困難区域の解消を 目指すという目的は同一であるため目標値は据え置く。 | | ● |
| 道路 | 市道村田町74号線 | 0 | — | 20 | L=900m | H20年7月に計画変更して追加。 | 防災環境改善の指標に関係するが、消火活動困難区域の解消を 目指すという目的は同一であるため目標値は据え置く。 | | ● |
| 公園 | (仮称) 村田町公園A | 0 | — | 46 | A= 588㎡ | 事業項目の適正化により、地域 生活基盤施設から公園事業に 変更及び事業費の精査による減 | 目標・数値指標への影響なし。 | | |
| 公園 | 村田川第二公園 | 0 | — | 123 | A=1500㎡ | H18年2月に計画変更して追加。 | 避難地として活用できるオープンスペースの整備に関連するため防 災環境改善の指標に関係するが、他の道路整備によって消防活動 困難区域の解消を図ることから目標値は据え置く。 | | ● |
| 公園 | 浜野町公園 | 0 | — | 40 | A=2400㎡ | H18年2月に計画変更して追加。 | 避難地として活用できるオープンスペースの整備に関連するため防 災環境改善の指標に関係するが、他の道路整備によって消防活動 困難区域の解消を図ることから目標値は据え置く。 | | ● |
| 河川 | | | | | | | | | |
| 下水道 | 村田町下水道 | 183 | L=500m | 255 | L=1,060m | 施設管延長の表示方法の変更 及び事業費の精査による増 | 目標・数値指標への影響なし。 | | |
| 駐車場有効利用システム | | | | | | | | | |
| 地域生活基盤施設 | 村田町広場公園 | 62 | A=588㎡ | 0 | — | 公園事業((仮称)村田町公園A) とする。 | 目標・数値指標への影響なし。 | — | — |
| 高質空間形成施設 | JR浜野駅東口駅前広場 | 16 | シルター L=40m | 65 | シルター L=61m 透水性舗装 A=670㎡ | シルター整備延長の変更及び透水 性舗装、点字ブロックの追加 | 交通結節機能の充実機能を上方修正。 | ● | |
| 高次都市施設 | | | | | | | | | |
| 既存建物活用事業 | | | | | | | | | |
| 都市再生交通拠点整備事業 | | | | | | | | | |
| 土地区画整理事業(都市再生) | | | | | | | | | |
| 住宅市街地(総合整備事業) | | | | | | | | | |

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

| 基幹事業 | | | | | | | | | |
|--------------|-------|------|------|--------|------|--------------------------------------|---|------------|-------|
| 事業 | 事業箇所名 | 当初計画 | | 最終変更計画 | | 当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む) | 都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響 | 事後評価時の完成状況 | |
| | | 事業費 | 事業内容 | 事業費 | 事業内容 | | | 完成 | 完成見込み |
| 地区再開発事業 | | | | | | | | | |
| バリアフリー環境整備事業 | | | | | | | | | |
| 優良建築物等整備事業 | | | | | | | | | |
| 住宅市街地総合整備事業 | | | | | | | | | |
| 街なみ環境整備事業 | | | | | | | | | |
| 住宅地区改良事業等 | | | | | | | | | |
| 都心共同住宅供給事業 | | | | | | | | | |
| 公営住宅等整備 | | | | | | | | | |
| 都市再生住宅等整備 | | | | | | | | | |
| 防災街区整備事業 | | | | | | | | | |

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

| 指標 | 単位 | データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等) | (参考)※1 計画以前の値 (ア) | | 従前値 (イ) | | 目標値 (ウ) | | 数値(エ) | | 目標達成度※2 | | 1年以内の 達成見込みの有無 | | |
|-----|---------------|---|--|----------|------------|----------|------------|----------|-------|--------|---------|--------|-------------------|----|---|
| | | | | 基準 年度 | | 基準 年度 | | 目標 年度 | | | | | あり | なし | |
| 指標1 | ライフライン供給区域の拡大 | ha | 雨水排水施設の接続可能な宅地面積を把握し、その合計面積をそのまま評価値とする。 | 20.0 | H11 | 35.0 | H16 | 54.4 | H20 | モニタリング | H19 | — | モニタリング | — | ● |
| | | | | | | | | | | 事後評価 | 確定見込み ● | 40.3 | 事後評価 | △ | |
| 指標2 | 河川による地域分断の解消 | 分 | 村田川左岸(市原市)から浜野駅までの自動車による移動時間を測定し、そのまま評価値とする。 | 15 | H11 | 15 | H16 | 6 | H20 | モニタリング | H19 | — | モニタリング | — | ● |
| | | | | | | | | | | 事後評価 | 確定見込み ● | 13 | 事後評価 | △ | |
| 指標3 | 防災環境改善 | 戸 | 地区内の消防自動車活動困難区域(幅員6m以上の道路から、約140m以上離れた区域)を把握し、同区域の建物戸数を算出し、そのまま評価値とする。 | 23 | H11 | 23 | H16 | 0 | H20 | モニタリング | H19 | 23 | モニタリング | × | ● |
| | | | | | | | | | | 事後評価 | 確定見込み ● | 4 | 事後評価 | △ | |
| 指標4 | 交通結節機能の充実 | m | 浜野駅東口駅前広場における屋根付き歩行空間の延長を測定し、そのまま評価値とする。 | 0 | H11 | 15 | H16 | 61 | H20 | モニタリング | H19 | 61 | モニタリング | ○ | |
| | | | | | | | | | | 事後評価 | 確定見込み ● | 61 | 事後評価 | ○ | |
| 指標5 | 居住者数 | 人 | 平成20年7月末時点における住民基本台帳人口のデータと過去10年間の推移から評価基準日の評価値を推計する。 | 13,600 | H11 | 14,600 | H16 | 15,300 | H20 | モニタリング | H19 | 15,100 | モニタリング | △ | |
| | | | | | | | | | | 事後評価 | 確定見込み ● | 15,400 | 事後評価 | ○ | |

| 指標 | 目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む) | その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等) |
|-----|--|---|
| 指標1 | ライフラインの要である村田町線は部分的に整備を終えており、完全ではないが雨水排水施設等のネットワークを形成することが可能となり供給可能区域の拡大につながっていることから、目標達成度を△とした。 | ライフライン供給区域としているが、指標の計測にガス、上水道の供給区域は考えられていない。 |
| 指標2 | 村田町線は橋梁部等が部分的に整備・供用されており、この箇所と既存生活道路を用いて計測経路とすることも可能であるが、既存生活道路に係る負担が大きくなりすぎてしまい目標を達成したとは言い難い。このことから、従前値計測経路を使って計測したところ、所要時間が短縮されていることから、目標達成度を△とした。 | 従前値計測経路を使って所用時間を計測したところ、平均で5分の短縮となったが、採用した値は最大値(13分)とした。これは、運転技術等の個人差、信号・踏切での停止時間、交通量等の外的要因による差が大きいことを考慮した。 |
| 指標3 | 村田町線の一部完成(未供用)により、消防活動困難区域解消に繋がっている。しかしながら、生活道路の改善が進んでいないため、指標達成に至らず、目標達成度を△とした。 | |
| 指標4 | 駅舎とバス停を結ぶ経路に加え、バリアフリー機能の充実を図るため駅舎からエレベーターまでの経路を追加し、目標値どおり整備を完了していることから、目標達成度を○とした。 | |
| 指標5 | H20.7時点で住民基本台帳人口約15,300人と、H10年度～H19年度までのデータの推移から、H21.3の居住者数15,400人の推計値を得たことから、目標達成度を○とした。 | |

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

| 指標 | 単位 | データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等) | (参考)※1 計画以前の値 (ア) | | 従前値 (イ) | | 数値(ウ) | | | 本指標を取り上げる理由 | その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等) |
|-----------|------------------|---|--|-------|------------|--------|-------|--------|-------------|---|----------------------------|
| | | | 基準 年度 | | 基準 年度 | | | | | | |
| その他の数値指標1 | 雨水幹線の布設率 | % | 平成21年3月における村田町線に布設された雨水幹線の延長を集計し、布設計画延長に対する割合を確定値とする。 | 0 | H11 | 0 | H16 | モニタリング | H | ライフライン供給区域の評価値だけでは明確になりにくいので、雨水排水施設の根幹部分の改善状況を説明するため。 | 指標1を補完 |
| | | | | | | | | 事後評価 | 確定 見込み ● | | |
| その他の数値指標2 | 歩行者による地域間連絡時間の短縮 | 分 | 平成21年3月における村田川左岸(市原市)から浜野駅までの最短経路を測定し、平均歩行速度での所要時間を評価値とする。 | 23 | H11 | 23 | H16 | モニタリング | H | 自動車を使つての改善状況の把握が困難であり、村田町線の整備状況及び効果を、より分かり易く説明するため。 | 指標2を補完 |
| | | | | | | | | 事後評価 | 確定 見込み ● | | |
| その他の数値指標3 | 簡易避難地の面積 | ㎡ | 平成21年3月における整備の終了した公園面積を集計し、そのまま評価値とする。 | 6,540 | H11 | 6,540 | H16 | モニタリング | H | 目標2を、火災以外の災害及び快適性という観点から評価し、整備状況を説明するため。 | 指標3を補完 |
| | | | | | | | | 事後評価 | 確定 見込み ● | | |
| その他の数値指標4 | 浜野駅乗降客数 | 人 | 平成21年3月末の乗降客数を統計資料により把握し、評価値とする。 | 9,300 | H11 | 10,850 | H16 | モニタリング | H | 交通結節機能の充実度を別の観点から示し説明するため。 | |
| | | | | | | | | 事後評価 | 確定 見込み ● | | |

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域へまちづくりの情報もたらず機会が増えた。 ・ まちづくりに関して住民自らの意見が反映されやすいと認識され始め、事業説明会等の際にも住民から積極的な意見や質問が交わされるようになり、住民のまちづくりに対する参加意欲が大きく向上した。 |
|--|

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

| 都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容 | 実施状況 | 実施頻度・実施時期・実施結果 | 今後の対応方針等 |
|---------------------------------|-------------------|---|---|
| 交付期間中(中間期)におけるモニタリングの実施 | 予定どおり実施した | ① 実施頻度：交付期間5年に1回、計1回 ② 実施時期：平成19年6月～9月 ③ 実施結果：最終年度における事業効果の達成に向け、整備計画の変更により事業の数値目標の適正化を図った。 | 進捗していないため評価が困難な事業に対してもモニタリングを行う必要があり、以降の事業の進め方に反映させる。 |
| | 予定はなかったが実施した ● | | |
| | 予定したが実施できなかった(理由) | | |
| | 予定どおり実施した | | |
| | 予定はなかったが実施した | | |
| | 予定したが実施できなかった(理由) | | |

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

| 都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容 | 実施状況 | 実施頻度・実施時期・実施結果 | 今後の対応方針等 |
|--|-------------------|--|--|
| ○ 協議会・説明会の実施 ・ JR浜野駅前シェルター設置 についての説明会 ・ 神明神社移転協議会 ・ 市道拡幅についての説明会 | 予定どおり実施した | ① 実施頻度 H18年度は2回、H19年度は4回、H20年度は3回実施 ② 実施時期 平成19年1月～平成21年3月 ③ 実施効果 地域の課題である狭隘道路の整備及び駅前シェルターの設置、神社移転等について問題抽出から対応策まで、地元の意見を反映できた。 | 今後は、更に住民の直接的意見を聞くとともに、交付期間後も、持続的な組織への移行について模索する。 |
| | 予定はなかったが実施した ● | | |
| | 予定したが実施できなかった(理由) | | |
| | 予定どおり実施した | | |
| | 予定はなかったが実施した | | |
| | 予定したが実施できなかった(理由) | | |

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

| 都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容 | 構築状況 | 実施頻度・実施時期・実施結果 | | 今後の対応方針等 |
|---------------------------------|-------------------|-----------------|--------------------|----------|
| | | i. 体制構築に向けた取組内容 | ii. まちづくり組織名:組織の概要 | |
| なし | 予定どおり実施した | | | |
| | 予定はなかったが実施した | | | |
| | 予定したが実施できなかった(理由) | | | |
| | 予定どおり実施した | | | |
| | 予定はなかったが実施した | | | |
| | 予定したが実施できなかった(理由) | | | |

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

| 名称等 | 検討メンバー | 実施時期 | 担当部署 |
|---------------------------------|---|--|------------------------|
| 庁内の横断的な組織 (村田町沿道地区事後評価検討チーム) | 関係各課主任級職員 (交通政策課、道路計画課、公園建設課、 まちづくり推進課、街路建設課) | ・実施時期：期間中2回の会議を実施 第1回 平成20年8月28日 第2回 平成20年9月5日 ・その他、メール等にて意見交換を実施 | 街路建設課 (村田町線沿道地区代表課) |

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

| 指標の種別 | | 指標 4 | 指標 5 | その他の指標 1 | その他の指標 2 |
|-------|-----------------------|-------------------|--|-------------------|--|
| 指標名 | | 交通結節機能の充実 | 居住者数 | 雨水幹線の布設率 | 歩行者による地域間 連絡時間の短縮 |
| 種別 | 事業名・箇所名 | 指標改善 への 貢献度 | 総合所見 | 指標改善 への 貢献度 | 総合所見 |
| 基幹事業 | 【道路】都市計画道路村田町線 | — | まちづくり協議会をと おして、立案の時点 から地域の声を取り 入れることができた ため事業展開もスム ーズに進められた。 バリアフリー機能の充 実を図るため、エレベ ーターまでのシェルタ ー経路の延伸につい ても、スムーズに事業 化することができ、駅 を利用する人の利便 性・快適性が向上し た。 | ○ | 村田町線整備事業実 施時における説明不 足により、地権者や地 元との合意形成に困 難を極め、村田町線の 全線整備には至らな かったものの、約2/3 が整備を終えており、 雨水幹線の布設率向 上、惹いてはライフラ イン埋設空間の確保 につながっている。 |
| | 【道路】市道村田町19号線 | — | | △ | |
| | 【道路】市道村田町34号線 | — | | △ | |
| | 【道路】市道村田町46号線 | — | | △ | |
| | 【道路】市道村田町53号線 | — | | △ | |
| | 【道路】市道村田町74号線 | — | | △ | |
| | 【公園】(仮称)村田町公園A | — | | ○ | |
| | 【公園】村田川第二公園 | — | | ○ | |
| | 【公園】浜野町公園 | — | | ○ | |
| | 【下水道】村田町下水道 | — | | ○ | |
| 提案事業 | 【高質空間形成施設】JR浜野駅東口駅前広場 | ◎ | ○ | ◎ | |
| | 【地域創造支援事業】浜野駅快速停車整備 | — | ○ | — | |
| | 【地域創造支援事業】浜野町公園 | — | △ | — | |
| | 【事業活用調査】整備効果検討調査 | ○ | — | — | |
| 関連事業 | 【事業活用調査】事後評価調査 | — | — | — | |
| | | — | — | — | |

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

| | | | | |
|-------|---|-----------------------------------|--|--|
| 今後の活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・交通結節機能を活かした地区の顔としての整備 ・まちづくり協議会とともに施設計画・デザイン等を考えることで地域への愛着心を醸成する。 | 増加した居住者が街中を回遊してもらえるようなまちづくりを計画する。 | | |
|-------|---|-----------------------------------|--|--|

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

| 指標の種別 | | その他の指標3 | | その他の指標4 | | | | | |
|-----------------------|---------------------|-----------|---|-----------|--|-----------|------|-----------|------|
| 指標名 | | 簡易避難地の面積 | | 浜野駅乗降客数 | | | | | |
| 種別 | 事業名・箇所名 | 指標改善への貢献度 | 総合所見 | 指標改善への貢献度 | 総合所見 | 指標改善への貢献度 | 総合所見 | 指標改善への貢献度 | 総合所見 |
| 基幹事業 | 【道路】都市計画道路村田町線 | — | 村田町第二公園については、立案の時点から地域の声を取り入れることができたため、用地取得がスムーズに行われ、簡易避難地(公園)の面積増につながっている。 | ○ | 浜野駅が快速停車になることへの期待から区画整理地内にマンション等の住環境の整備が進み居住者数が増加したこと、駅前広場等の環境整備により交通結節点としての機能が充実し利便性が向上したことにより、浜野駅の乗降客数が増大したものと考えられる。 | | | | |
| | 【道路】市道村田町19号線 | — | | — | | | | | |
| | 【道路】市道村田町34号線 | — | | — | | | | | |
| | 【道路】市道村田町46号線 | — | | — | | | | | |
| | 【道路】市道村田町53号線 | — | | — | | | | | |
| | 【道路】市道村田町74号線 | — | | — | | | | | |
| | 【公園】(仮称)村田町公園A | ○ | | — | | | | | |
| | 【公園】村田川第二公園 | ◎ | | — | | | | | |
| | 【公園】浜野町公園 | ○ | | — | | | | | |
| | 【下水道】村田町下水道 | — | | — | | | | | |
| 【高質空間形成施設】JR浜野駅東口駅前広場 | — | ◎ | | | | | | | |
| 提案事業 | 【地域創造支援事業】浜野駅快速停車整備 | — | | ◎ | | | | | |
| | 【地域創造支援事業】浜野町公園 | — | | — | | | | | |
| | 【事業活用調査】整備効果検討調査 | — | | — | | | | | |
| | 【事業活用調査】事後評価調査 | — | | — | | | | | |
| 関連事業 | | | | | | | | | |

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

| | | | | |
|-------|--|--|--|--|
| 今後の活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会とともに施設計画・デザイン等を考えることでコミュニティの中心となる公園として整備を行うとともに、緊急時の避難地としての活用を図る。 ・増加した乗降客及び居住者が街中を回遊・散策してもらえるようなまちづくりを計画する。 | | | |
|-------|--|--|--|--|

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

| 指標の種別 | | 指標 1 | | | 指標 2 | | | 指標 3 | | | | | |
|-----------------------|---------------------|---------------|--|-------|--------------|--|-------|------------|--|-------|------------|------|-------|
| 指標名 | | ライフライン供給区域の拡大 | | | 河川による地域分断の解消 | | | 防災環境改善 | | | | | |
| 種別 | 事業名・箇所名 | 目標未達成への影響度 | 総合所見 | 要因の分類 | 目標未達成への影響度 | 総合所見 | 要因の分類 | 目標未達成への影響度 | 総合所見 | 要因の分類 | 目標未達成への影響度 | 総合所見 | 要因の分類 |
| 基幹事業 | 【道路】都市計画道路村田町線 | ×× | 個別の事業実施時における説明不足により、地権者や地元との合意形成に困難を極め、村田町線等の整備が計画どおり進まず目標達成に至らなかった。しかしながら、整備を終えた部分については雨水排水等のライフラインのネットワーク形成が可能となり、供給可能区域の拡大につながっている。 | I | ×× | 個別の事業実施時における説明不足により、地権者や地元との合意形成に困難を極め、村田町線の整備が計画どおり進まず目標達成に至らなかった。しかしながら、村田町線は村田川に架かる橋梁を含め一部が完成し、既に橋梁を利用している歩行者が連絡路として使用し機能を発揮しだしているものと考えられる。 | I | △ | 個別の事業実施時における説明不足により、地権者や地元との合意形成に困難を極め、村田町線をはじめとする道路等の整備が計画どおり進まず目標達成に至らなかった。しかしながら、村田町線の一部完成が消防活動困難区域の縮小につながっている。 | I | | | |
| | 【道路】市道村田町19号線 | — | | | × | | | × | | | × | | |
| | 【道路】市道村田町34号線 | — | | | × | | | × | | | × | | |
| | 【道路】市道村田町46号線 | — | | | × | | | × | | | × | | |
| | 【道路】市道村田町53号線 | — | | | × | | | △ | | | △ | | |
| | 【道路】市道村田町74号線 | — | | | × | | | △ | | | △ | | |
| | 【公園】(仮称)村田町公園A | — | | | — | | | × | | | × | | |
| | 【公園】村田川第二公園 | — | | | — | | | × | | | × | | |
| | 【公園】浜野町公園 | — | | | — | | | × | | | × | | |
| | 【下水道】村田町下水道 | △ | | | — | | | — | | | — | | |
| 【高質空間形成施設】JR浜野駅東口駅前広場 | — | — | — | — | | | | | | | | | |
| 提案事業 | 【地域創造支援事業】浜野駅快速停車整備 | — | | | — | | | — | | | — | | |
| | 【地域創造支援事業】浜野町公園 | — | | | — | | | — | | | | | |
| | 【事業活用調査】整備効果検討調査 | — | | | — | | | — | | | | | |
| | 【事業活用調査】事後評価調査 | — | | | — | | | — | | | | | |
| 関連事業 | | | | | | | | | | | | | |

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類I: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類II: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類III: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類IV: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

| 改善の方針 (記入は必須) | 指標 1 | 指標 2 | 指標 3 |
|------------------|---|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> 合意形成のため、説明会の開催 (現在のライフラインの整備状況、想定されるスケジュール等を説明し、事業への理解を深める活動を行う。) ライフライン整備の見直し (街路整備に追従するが、既存管との接続等により供用区間の拡大を図る。) | <ul style="list-style-type: none"> 合意形成のため、説明会の開催 (現在の周辺幹線道路の整備状況、村田町線の必要性、想定されるスケジュール等を説明し、事業への理解を深める活動を行う。) | <ul style="list-style-type: none"> 合意形成のため、説明会の開催 (現在の防災上の問題点、想定されるスケジュール等を説明し、事業への理解を深める活動を行う。) |

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

| 名称等 | 検討メンバー | 実施時期 | 担当部署 |
|---------------------------------|---|--|-----------------------|
| 庁内の横断的な組織 (村田町沿道地区事後評価検討チーム) | 関係各課主任級職員 (交通政策課、道路計画課、公園建設課、 まちづくり推進課、街路建設課) | ・実施時期：期間中2回の会議を実施 第1回 平成20年8月28日 第2回 平成20年9月5日 ・その他、メール等にて意見交換を実施 | 街路建設課 (村田町沿道地区代表課) |

添付様式5-② まちの課題の変化

| 事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題 | 達成されたこと(課題の改善状況) | 残された未解決の課題 | 事業によって発生した 新たな課題 |
|--|--|---|--|
| 河川により分断されており 千葉市と市原市との地区コ ミュニティの連携が不足して いる。 | | 車両通行ができるよう村田町線の早期完成 ※ 橋梁部を含め全体の約2/3において、歩行者は通れ るようになったが、コミュニティの連携は不十分 | ・ 地区内連携の強化 都市計画道路村田町線が全線供用されると、地区内の生 活道路へ交通の集中が予想され、交通安全上、生活環境上 新たな問題となる。 |
| 幹線道路が未整備である ため、ライフラインの埋設空 間がない。 | 村田町線の約2/3が整備されており、雨水排水等 のライフラインのネットワーク形成が既存施設を利用 することで可能となり、若干であるが供給区域の拡 大につながっている。 | 村田町線の残り約1/3を早急に整備し、ライフライン埋設 空間を確保する。 | |
| 交通結節点であるJR浜野 駅に屋根付き歩行空間が少 ない。 | バス乗降場の経路及び駅舎エレベーターまでの経 路についてシェルターを整備し、歩行空間としての機 能充実を図った。 | | |
| 交通結節点であるJR浜野 駅のプラットホームが短く、 快速車両が止まらない。 | 鉄道事業者はH21年3月に快速停車を実現する意 向であり、これに向けプラットホーム等を快速停車対 応に改良した。 | | |
| 生活道路が狭隘であり、 避難地等として活用できるオ ープンスペース等がない。 | 改良を計画している生活道路の一部について、用地 の取得及び工作物の移設が行われている。 | ・ 狭隘生活道路の解消 ・ 不足しているオープンスペースの確保 | |

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

| A欄 効果を持続させるため に行う方策 | 効果の持続を図る事項 | 効果を持続させるための基本的な考え方 | 想定される事業 |
|---------------------------|--------------------------|---|--|
| | ・ 地区の顔としてのJR浜野駅前のにぎわいの創出 | ・ 居住者(乗降客)が快適に乗換え等を行う整備に続いて、散策、回遊できる環境及び施設整備を行うことにより、地区の活性化を図る。 | ・ 商業施設等の誘致 ・ 乗降客を中心に賑わいを演出するイベントの開催 等 |
| | | | |
| | | | |

| B欄 改善策 | 改善する事項 | 改善策の基本的な考え方 | 想定される事業 |
|-----------|---------------|--|---|
| | 千葉市と市原市との連携強化 | ・ 千葉市と市原市の連携強化をするため、都市計画道路村田町線を整備することにより、地区コミュニティの交流促進を図る。 | ・ 都市計画道路村田町線の整備事業 |
| | ライフライン埋設空間の確保 | ・ 未整備区間に立地する神明神社の移転を地元の意向を確認しつつ早急に行い、村田町線の全線開通を図る。 | ・ 都市計画道路村田町線の整備事業 ・ 神明神社の移転 |
| | 狭隘道路の解消 | ・ 権利者・周辺住民との意見交換を行い、できるだけ地元負担のかからないよう、拡幅整備を図る。 | ・ 生活道路(市道村田町34号線、村田町46号線)の拡幅整備事業 |
| | オープンスペースの確保 | ・ 神明神社の移転を早急に行い、(仮称)村田町公園Aの用地を確保するとともに、施設整備を図る。 | ・ 神明神社の移転 (仮称)村田町公園Aの用地確保 ・ 公園整備事業 (仮称)村田町公園Aの施設整備 |
| | JR東西間の連携強化 | ・ JR東西間の連携強化のため、生活道路の根幹をなす市道村田町34号線と市道村田町19号線を併せて整備することにより、円滑なJR東西間の交流を図る。 ・ 権利者・周辺住民との意見交換を図る。 | ・ 生活道路(市道村田町19号線)の拡幅整備事業 |

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

| | |
|---|---|
| ● | 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。 |
| ● | 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。 |
| ● | 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。 |
| ● | 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。 |
| ● | 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。 |

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 村田町線の整備により、沿線に取り残されていた未利用地等が急速に市街化されることが予想されることから、先行的な生活道路の整備が必要となるものと思われる。 ・ 道路事業等のハード面の整備だけでなく、ソフト的な事業も導入したほうが良いと思われる。 ・ 地元住民からの意見を聴く機会を増やす事が必要と思われる。 |
|---|

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

| 指標 | | 単位 | 従前値 | | 目標値 | | 評価値 | | 目標達成度 | 1年以内の達成見込みの有無 | フォローアップ計画 | | | | |
|-----------|------------------|----|--------|-----|--------|-----|-----|-----|--------|---------------|-----------|------|---------|--|---------------------|
| | | | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | 確定 | 見込み | | | 予定時期 | 計測方法 | その他特記事項 | | |
| 指標1 | ライフライン供給区域の拡大 | ha | 35.0 | H16 | 54.4 | H20 | 確定 | | 40.3 | △ | あり | → | 平成21年5月 | 平成21年3月における雨水排水施設への接続可能な宅地面積を管理図面等より測定し確定値とする。 | |
| | | | | | | | 見込み | ● | | | | | | | |
| 指標2 | 河川による地域分断の解消 | 分 | 15 | H16 | 6 | H20 | 確定 | | 13 | △ | あり | → | 平成21年5月 | 平成21年3月における村田川左岸(市原市)から浜野駅までの自動車による移動時間を測定し、そのまま評価値とする。 | |
| | | | | | | | 見込み | ● | | | | | | | |
| 指標3 | 防災環境改善 | 戸 | 23 | H16 | 0 | H20 | 確定 | | 4 | △ | あり | → | 平成21年5月 | 平成21年3月において地区内の消防自動車活動困難区域にある建物戸数を計数し、確定値とする。 | |
| | | | | | | | 見込み | ● | | | | | | | |
| 指標4 | 交通結節機能の充実 | m | 15 | H16 | 61 | H20 | 確定 | ● | 61 | ○ | あり | → | | | 評価値(確定値)が目標値に達している。 |
| | | | | | | | 見込み | | | | | | | | |
| 指標5 | 居住者数 | 人 | 14,600 | H16 | 15,300 | H20 | 確定 | | 15,400 | ○ | あり | → | 平成21年5月 | 平成21年3月末の居住者数を住民基本台帳により把握し、評価値とする。 | |
| | | | | | | | 見込み | ● | | | | | | | |
| その他の数値指標1 | 雨水幹線の布設率 | % | 0 | H16 | | | 確定 | | 69.0 | | | → | 平成21年5月 | 平成21年3月における村田町線に布設された雨水幹線の延長を集計し、敷設計画延長に対する割合を確定値とする。 | |
| その他の数値指標2 | 歩行者による地域間連絡時間の短縮 | 分 | 23 | H16 | | | 確定 | | 17 | | | → | 平成21年5月 | 平成21年3月における村田川左岸(市原市)から浜野駅までの最短経路を測定し、平均歩行速度での所要時間を評価値とする。 | |
| | | | | | | | 見込み | ● | | | | | | | |
| その他の数値指標3 | 簡易避難地の面積 | ㎡ | 6540 | H16 | | | 確定 | | 7,100 | | | → | 平成21年5月 | 平成21年3月における整備の終了した公園面積を集計し、そのまま評価値とする。 | |
| | | | | | | | 見込み | ● | | | | | | | |
| その他の数値指標4 | 浜野駅乗降客数 | 人 | 10850 | H16 | | | 確定 | | 11,700 | | | → | 平成21年5月 | 平成21年3月末の乗降客数を統計資料により把握し、評価値とする。 | |
| | | | | | | | 見込み | ● | | | | | | | |

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

| 項目 | | 要因分析 | 次期計画や他地区への活かし方 |
|--------------------------|------------|---|--|
| 数値目標 ・成果の達成 | うまくいった点 | 事業の立案段階から地元の声を取り入れることができたケースでは、事業展開がスムーズに進められ、場合によっては当初計画を上回る成果が得られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・事業の成否は地元との調整にかかっており地元から多くの提案が上げられるよう、説明会等を行う必要がある。 ・指標の設定において、中心となる事業に偏ることなく、計画している全ての事業について指標の設定が可能であるかどうかを検討する必要がある。 |
| | うまくいかなかった点 | 1つの事業が複数の指標の達成に関係していたため、その事業の遅れが複数の指標の達成に影響を及ぼした。 | |
| 数値目標と 目標・事業との 整合性等 | うまくいった点 | | <ul style="list-style-type: none"> ・事後評価の実施を考慮した指標の設定 ・従前値データ(算出方法、計測状況の詳細説明(写真等))の保管 |
| | うまくいかなかった点 | 関連する事業が完成していないにも拘わらず評価値が目標値に近づいた指標があった。指標の計測に外的な要因(個人差、社会的な要因)が大きく影響したためと考えられる。 | |
| 住民参加 ・情報公開 | うまくいった点 | 神社の移転問題(移転場所、移転時期等を地元の風習としてどう行うか)をきっかけに村田町同志会が構築され、部分的ではあるが住民参加のまちづくりの基礎ができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地権者や地元の合意形成が事業を円滑に進める上で最も重要であり、住民参加の体制を整える必要がある。 |
| | うまくいかなかった点 | | |
| PDCAによる事業 ・評価の進め方 | うまくいった点 | 当初計画では道路・公園・下水道整備などしか盛り込まれていなかったが、新たに地域の活性化にインパクトを与える事業として、JR浜野駅の快速停車駅を加え、活性化を図る指標として居住者数を追加。 | <ul style="list-style-type: none"> ・整備計画の策定を行なうに当たり、事前に地域住民の意見をきく事で、地域の抱える課題を正確に捉えることに努める。 |
| | うまくいかなかった点 | 地域住民の意見をきく機会を設けられなかった。 | |
| その他 | うまくいった点 | | |
| | うまくいかなかった点 | | |

添付様式6ー参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・今後のまちづくり交付金の活用予定 本市においては、交通環境の改善を行う次期計画地区として、当地区にほかに新港横戸町線沿道地区、南町宮崎町線沿道地区を予定している。 当地区の経験を次期都市再生整備計画に活かしていく。 ・今後、事後評価を予定する地区 本市においては、平成21年に菅田駅周辺地区、仁戸名・川戸地区、千葉中央第六周辺地区の3地区において事後評価を実施予定。 当地区の事後評価の経験を踏まえて、円滑に事後評価を実施したい。 |
|---|

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

| 公表方法 | 具体的方法 | 公表期間・公表日 | 意見受付期間 | 意見の受付方法 | 担当部署 |
|--------------|--|-----------------------------|------------------------|------------------------------|-------------------------------|
| インターネット | 市のホームページに掲載 | 平成20年10月10日 ～10月24日 | 平成20年10月10日 ～10月24日 | 担当課への 持参、郵送、FAX、電 子メール | まちづくり推進課 (まちづくり交付金主管 課) |
| 広報掲載・回覧・個別配布 | 広報に市のホームページで原 案を公表し、担当課窓口で閲 覧できる旨を掲載 | 平成20年10月1日発刊 市政だより10月1日号 | — | | |
| 説明会・ワークショップ | — | — | — | | |
| その他 | 担当課窓口での閲覧 | 平成20年10月10日 ～10月24日 | 平成20年10月10日 ～10月24日 | | |

| | |
|-------|---|
| 住民の意見 | 都市再生整備計画書の記載内容について教えてほしい。(生活道路の整備対象路線や公園の名称が決定される経緯について。) |
|-------|---|

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

| 委員構成 | | 実施時期 | 担当部署 | 委員会の設置根拠 | 委員会の母体組織 |
|-----------|--|----------------------------|---------------------------|--------------------------|----------|
| 学識経験のある委員 | 岡部 明子 千葉大学工学部准教授(都市政策) 委員長 | 平成20年11月17日 平成20年11月26日 | まちづくり推進課 (まちづくり交付金主管課) | 千葉県まちづくり交付金 評価委員会設置要綱 | 独自に設置 |
| その他の委員 | 栗田 和夫 NPO法人はさま・まちづくりの会専務理事/ 事務局長(市民参加とまちづくり、土地区画 整理事業の経営) 亀山 典子 (株)日本総合研究所主任研究員(行政評価) | | | | |

| 審議事項※1 | 委員会の意見 | |
|------------------------|---------------------------|---|
| 事後評価手 続き等にか かる審議 | 方法書 | 意見なし。 |
| | 成果の評価 | 意見なし。 |
| | 実施過程の評価 | 意見なし。 |
| | 効果発現要因の整理 | 意見なし。 |
| | 事後評価原案の公表の妥当性 | 意見なし。 |
| | その他 | 意見なし。 |
| | 事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認 | 妥当である。 |
| 今後のまち づくりにつ いて審議 | 今後のまちづくり方策の作成 | 意見なし。 |
| | フォローアップ | 意見なし。 |
| | その他 | 一部合意を得ていない地権者との粘り強い用地交渉の継続や、地元住民から意見を聴く機会を増やす事、また、道路事業等のインフラ整備だけでなく、ソフト事業も取り入れる必要があるのではないか。 |
| | 今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認 | 概ね妥当である。 |
| その他 | 意見なし。 | |

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

都市再生整備計画(第4回変更)

むらたちょうせんえんどうちく
村田町線沿道地区

ちばけん ちばし
千葉県 千葉市

平成20年8月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

| | | | | | | | |
|-------|---------------------|------|---------------------|-----|----------|----|---------|
| 都道府県名 | 千葉県 | 市町村名 | 千葉市 | 地区名 | 村田町線沿道地区 | 面積 | 54.4 ha |
| 計画期間 | 平成 16 年度 ~ 平成 20 年度 | 交付期間 | 平成 16 年度 ~ 平成 20 年度 | | | | |

目標
 千葉市・市原市の連携強化による、市民の交流促進・生活環境向上・利便性向上を図る
 目標1:地区生活圏の一体化による地域の活性化及び向上
 目標2:安全で快適な生活環境の形成
 目標3:快適な駅前広場空間の形成

目標設定の根拠
 まちづくりの経緯及び現況
 当該地区は、市原市との市境に位置し、鉄道、広域道路及び河川(二級河川村田川水系村田川)等により地域が分断されている為、周辺より取り残された状態であると共に、経済・生活圏は、専ら北側(千葉市側)のみで、地区コミュニティの形成に支障をきたしている状況である。これは、古くからの歴史に起因するところであり、村田川が国境の川と呼ばれ、旧上総国と旧下総国との境であった為でもある。
 近年、区画整理事業によるJR浜野駅前広場等の都市施設の整備が進んできたが、村田川直近に位置するため、当該地区においては度々冠水する等、

課題
 ○河川により分断されており、千葉市と市原市との地区コミュニティの連携が不足している
 ○幹線道路が未整備のため、ライフライン(ガス・下水等)の埋設空間が無い
 ○交通結節点であるJR浜野駅に屋根付き歩行空間が少ない
 ○交通結節点であるJR浜野駅のプラットフォームが短く快速車両が止まらない
 ○密度の高い住宅市街地を形成しているが、生活道路は狭隘で避難地等として活用できるオープンスペース等がない

将来ビジョン(中長期)
 ○千葉市と市原市との連携強化による一体的な市街地の形成を目指す
 ○新市街地の開発誘導及び周辺市街地との交通ネットワークの形成を図る
 ○さらなる交通結節機能の充実を図り、高齢者を含めた誰にでもやさしく快適な駅前広場空間の形成を目指すと共に駅利用者の利便性を図る
 ○生活幹線道路整備に併せて避難地も連携整備し、地区の防災機能の向上を図る

目標を定量化する指標

| 指標 | 単位 | 定義 | 目標と指標及び目標値の関連性 | 従前値 | 基準年度 | 目標値 | 目標年度 |
|---------------|----|------------------|--|---------|------|---------|------|
| | | | | | | | |
| ライフライン供給区域の拡大 | ha | 供給可能面積 | 地域の活性化及び向上を示す指標とする。インフラ整備が立ち遅れていることからライフライン供給区域の拡大を目指す。 | 35.0ha | H16 | 54.4ha | H20 |
| 河川による地域分断の解消 | 分 | 浜野駅から市原市域までの移動時間 | 生活圏の一体化を示す指標とする。村田川によって地域が分断されていることから、地域交流促進のために、橋梁整備等による時間の短縮を目標とする。 | 15分 | H16 | 6分 | H20 |
| 防災環境改善 | 戸 | 防災環境改善必要区域内の建物戸数 | 安全で快適な生活環境の形成を示す指標とする。周辺より取り残された地区はインフラ整備が進んでおらず、消防活動困難区域が存在することから、その区域を無くし、安全で快適な生活環境の形成を目指す。 | 23戸 | H16 | 0戸 | H20 |
| 交通結節機能の充実 | m | 屋根付き歩行空間の延長 | 快適な駅前広場空間の形成を示す指標とする。屋根付き歩行空間を利用できる人を増やし、快適な駅前広場空間を形成することを目指す。 | 15m | H16 | 61m | H20 |
| 居住者数 | 人 | 居住人口の増加 | 地域の活性化及び向上を示す指標とする。駅を中心としたまちづくりが不十分であることから、駅周辺の土地利用を推進し、魅力あるまちづくりを形成することを目指す。 | 14,600人 | H16 | 15,300人 | H20 |

都市再生整備計画の整備方針等

| 計画区域の整備方針 | 方針に合致する主要な事業 |
|--|--|
| <p>整備方針1(連携強化による地域交流の促進) ・都市計画道路の整備により、地域分断を解消し、千葉市・市原市の連携強化と、地区内の活性化を図る。 ・都市計画道路の整備により、周辺市街地との連携強化を図る。</p> | <p>・都市計画道路村田町線整備事業</p> |
| <p>整備方針2(快適な生活環境の創出) ・下水道整備により、快適な生活環境の創出を図る。 ・都市計画道路沿道及び地区中央に公園を整備し、地域コミュニティ形成の促進を図る。</p> | <p>・下水道整備事業 ・公園整備事業</p> |
| <p>整備方針3(生活利便性の向上) ・狭隘な生活道路の拡幅やクランク解消等の部分整備により、都市計画道路と連携強化、地区内住宅地の整備改善・防災環境の向上を図る。</p> | <p>・市道村田町34号線他整備事業</p> |
| <p>整備方針4(快適な駅前広場空間の形成) ・JR浜野駅前広場の高質空間を形成し、地区外や地区内の顔づくりとしての整備を図る。</p> | <p>・高質空間形成(駅前広場の整備)</p> |
| <p>その他</p> | |

